

幼稚園の圖畫及び手工に就いて (二)

お仕事に對する統計的觀察

八王子幼稚園長

伊 藤 堅 逸

二、仕事のしぶり

仕事のしぶりに云へば種々なる方面から見ることが出来る、併しこゝには保育カードの上で觀察し得られることだけに就いて云ふのである。それで先づ保育カードのこゝを明かにしなければならぬのであるが説明を簡單にする爲めに保育カードそのものを左に掲げる事にする。

此の保育カードは感覺練習、恩物及び圖畫と手工の三つの部分になつてゐるが、こゝでは圖畫と手工の部分の説明だけで足るのであるから他の二つの部分については何も云ふ必要はない。

さて其種目として圖畫、塗繪、ぬいどり、組紙、織紙、きり紙、折紙、厚紙細工、豆細工、粘土細工、貼紙細工、木工細工等がある此れらは一般に幼稚園で行はれてゐるもので勿論此の外にもきびがら細工とか自然物利用の種々なる細工などがあるが此のカードにはそれらは皆其他の中に入れるやうにしてゐる。そして上に一ヶ月の日附があつて出席缺席を取るやうにし圖畫をしたなら其日の日附の下の圖畫の段に斜線を入れて其日に圖畫をしたと云ふ印をする、又同じ日に圖畫の外に折紙をしたなら矢張り同じ日附の下の折紙の段にも斜線を入れる。三種目をすれば三つの斜線で印がつくことになる、若し

るわけである。

斯る方法によつて得たカードを見るに一見して直ちに印の付き方に種々異なつたものゝあることが見られる。そして各兒の仕事ぶりが其印の付き工合によつて知られるのである。それで其印の付き工合を左の如く七種の型に分類して見たのである。

一、A型

仕事に繼續性があり、そして一つの主なるものを選んで常にそれをしてゐるが又他にも幾つかのものを選んでゐる。

二、B型

仕事に繼續性はあるが一つの手工又は圖畫の外は殆んどしてゐない。

三、C型

一つのことを二三回繼續して他に轉じてゐる、仕事には繼續性があるが或る一つのものに対する繼續性はない。

四、D型

特に自分の好むものがない、それ故毎日するものが變つてゐる、併し仕事には繼續性が充分認められる。

五、E型

特に好むものが二種以上あつて、その二種以上のものを繼續的にやつてゐる、故にB型を單線的にすれば此れは複線的な型であるに云へる。

六、F型

これは一時熱心であつていつの間にか不熱心になる型で、これにはA型のもあるD型のもある。又その他の型もある。

七、G型

これは仕事に對する興味が至つて少なく従つて勤勉性の薄い型で、仕事平均回數〇・三以下のものである。

さて、分類法は斯く定めたのことは定めたが實際分類する段になるに相當考へさせられることが多い。中にはD型に屬すべきかC型に屬すべきか、或はA型に屬すべきかE型に屬すべきかなど殆んど判断し兼ねるものもある。殊に仕事の回數の少ないものであるに分類は中々困難である。だから餘り曖昧なものには疑問符をつけ、やゝはつきりしたものにだけ分類符號をつけることとしたのである。斯くして昭和六年度に於て左の如き表を作るこゝが出来た。表中Hは一回も手工をしなかつたもの、餘線は缺席の符號である。組はチュールップ、バラ、スマイレの三組になつてゐてチュールップは保育二年の組でバラは當年初めて幼稚園に入園したものゝ組である、此二組は何づれも學齡に達する幼稚園の大きい組である。スマイレはまだ學齡に達しない小さい組である。此のスマイレの組では六年度は

第七表

		三月	二月	十二月	十一月	十月	七月	六月	五月
チュールップの組	男	CC	DD	AA	AC	AE	DD	AD	GD
	女	DDDD	AAAB	AAAB	AAAA	AAAA	DDCA	DAAD	AAAA
		DD	BB	BB	AA	AA	AA	AA	AA
		DD	AD	BD	CA	CA	AA	AD	AD
		DD	DD	DA	AA	AA	AA	AD	AD
		DD	DD	AA	AA	AA	AA	AD	AD
		DD	DD	AA	AA	AA	AA	AD	AD
		DD	DD	AA	AA	AA	AA	AD	AD
		DD	DD	AA	AA	AA	AA	AD	AD
		DD	DD	AA	AA	AA	AA	AD	AD
バラの組	男	AA/A	DD/A	BGD	BAA	BDA	BAD	AAD	AGB
	女	DFAD	DA	?FAB	ADE	CDAB	DDAB	AAAA	A?A
		AD	AA	/CHG	EAB	DA	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	AB	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
		AD	AA	/A	AD	FF	BB	AA	AA
スマイレの組	男	DG?	ADD	DFC?	D?CC	DCB			
	女	ADAG	ABDD	A?CFG?	AEADA	AAE			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			
		GA	DA		ADA	ADA			

カードを使せず

カードを使せず

カードを使せず

五月から七月まで保育カードを使用しなかつたため其間の統計を作る材料は缺けてゐる。123の数字は幼児の氏名番號である。昭和六年度の幼児數は第一表に出てゐるやうに四十二名であるが、中途退園したもの中途入園したものをこゝでは省いたため三十五名となつてゐる。

これを見るに同じ子供でも常に同じ仕事のしづりをするには限らぬ。例へばチュエリップの男の1は五月にGであつたが六月にAになり七月にDになり十月から十二月までAで二月三月はDもCになつてゐる。又比較的よく揃つてゐるの

第 八 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チュ エ リ ッ プ	男	5		3	6	1		1			16
	女	36	4	5	18		1				64
	計	41	4	8	24	1	1	1			80
パ ラ	男	12	5	1	10			2		1	31
	女	29	8	2	9	3	6	7	5	5	74
	計	41	13	3	19	3	6	9	5	6	105
ス ミ レ	男	1	1	4	8		1	2		3	20
	女	16	3	1	5	2	2	3		2	34
	計	17	4	5	13	2	3	5		5	54
合	計	99	21	16	56	6	10	13	5	11	239
	%	41.4	8.8	6.7	23.4	2.5	4.2	6.3	2.1	4.6	100

もある、例へばチュエリップの女の34567やバラの女の1719などは皆可成りよく揃つてゐる方である。それで此の表により一見して比較的的精神に變動の多いものも比較的變動の少ない落付きのある性格の子供を見分けることが出来るであらう。それにAにしてもBにしても仕事のしづりには必ずそれらに子供の性格が表はれてゐるのであるから仕事の符號によつて子供各々の性格をも大體判断することが出来るのである。尤も仕事づりが常に變化してゐるに據み所がないわけであるから、然う云ふ子供は全體として變動し易い精神状態にあるものを見る事が出来る。

さて此の仕事づりを統計的に一應整理して見るに即ち上表の如くなる。

此れによるに仕事づりの中で最も多いのは四一・四%のAで、此れに次ぐものは二三・四%のDであつたは何づれもADよりもずつと少なくなつてゐる。

AとDを合せるに全體の六四・九で殆んど六割五分をしめてゐる。こゝになる。

第九表 (五年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
大きい組	男	55	2		15	3			1	8	84
	女	31			39	17				8	95
	計	86	2		54	20			1	16	179
小さい組	男	10	1		4	5				13	33
	女	28			18	11		1		8	66
	計	38	1		22	16		1		21	99
合 計		124	3		76	36		1	1	37	278
%		44.6	1.1		27.3	13		0.3	0.3	13.4	100

第十表 (八年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
リ ュ ー ブ	男	35	6		18	1				3	63
	女	20		2	14	9				2	47
	計	55	6	2	32	10				5	110
バ ラ	男	16	5		2	5			1	2	31
	女	32	5	1	7	2				3	50
	計	48	10	1	9	7			1	5	81
ス ミ レ	男	25	12		7	3		1	2	7	57
	女	35	13	2	17	7				13	87
	計	60	25	2	24	10		1	2	20	144
合 計		163	41	5	65	27		1	3	30	335
%		48.7	12.2	1.5	19.4	8		0.3	0.9	9	100

残の三割五分の中に他の仕事ぶりが全部含まれてゐるのであるが其中ではBが最も多く、それに次いでC G F Eを云ふ順になつてEは仕事ぶりが少しては最も少ない型になつてゐる。所で此れを他の年度に於ける仕事ぶりと比較すれば如何、次に五年度と八年度の統計を掲げて見ることにしよう。七年度は仕事回数が少なく従つて仕事ぶりには不明な者が多いからこゝには省くことにする。

この二年度の統計のいづれを見ても最も多いのは矢張りAで、Aに次ぐものはDである。其れはさきにかゝげた六年度の統計と全く同じである。AとDを合せる三八年度では六割八分となり、五年度では七割二分となる。此の點に於ても六年度の六割五分に比して略々似た割合を見るこゝが出来。それでAは各年度を通じて第一位にありDは第二位であるが、B Eに至つては年度によつて異つて、六年度にはDに次ぐものはBであつてEは極めて僅かしかかつたが、五年度ではEがDに次いで可成り多く出でゐるがBは一・二で極く少ない。所が八年度ではDに次ぐものはBで二・二となりEは第四位を占めてゐる。さればA Dの位置は各年度

第 十 一 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ	男	31.25		12.50	37.50	6.25		6.25			100
	女	56.25	6.25	7.81	28.13		1.56				100
バラ	男	38.71	16.13	3.23	32.26			6.42		3.22	100
	女	39.19	10.81	2.70	12.16	4.05	8.11	9.46	6.76	6.76	100
計	男	36.17	10.64	8.51	34.04	2.13		6.38		2.13	100
	女	47.10	8.69	5.08	19.57	2.17	5.08	5.07	3.62	3.62	100
スマイレ	男	25	5	20	40		5	10		15	100
	女	47.07	8.82	2.94	14.71	5.88	5.88	8.82		5.88	100

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ		51.25	5.00	10.00	30.00	1.25	1.25	1.25			100
バラ		39.05	12.38	2.86	18.10	2.86	5.71	8.57	4.76	5.71	100
	計	44.33	9.19	5.95	23.24	2.16	3.78	5.41	2.70	3.24	100
スマイレ		31.48	7.47	9.25	24.07	3.70	5.55	9.25		9.25	100

第 十 二 表

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ	男	55.56	9.52		28.57	1.59				4.76	100
	女	42.55		4.26	29.79	19.14				4.26	100
バラ	男	51.61	16.13		6.45	16.13			3.23	6.45	100
	女	64	10	2	14	4				6	100
合計	男	54.26	11.70		21.28	6.38			1.06	5.32	100
	女	53.61	5.16	3.09	21.65	11.34				5.15	100
スマイレ	男	43.86	21.05		12.28	5.26		1.76	3.51	12.28	100
	女	40.23	14.94	2.30	19.54	8.05				14.94	100

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
チューリップ		50.00	5.45	1.82	29.09	9.09				4.55	100
バラ		59.26	12.35	1.23	11.11	8.64			1.23	6.18	100
	計	53.93	8.38	1.57	21.47	8.9			0.52	5.23	100
スマイレ		41.67	17.36	1.39	16.67	6.94		0.69	1.39	13.89	100

第十三表 (五年度)

		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
大きい組	男	65.48	2.38		17.86	3.57			1.19	9.52	100
	女	32.63			41.05	17.90				8.42	100
	計	48.04	1.12		30.17	11.17			0.56	8.94	100
小さい組	男	30.30	3.03		12.12	15.15				39.40	100
	女	42.42			27.27	16.67		1.52		12.12	100
	計	38.39	1.01		22.22	16.16		1.01		21.21	100

を通じて動かないがBE其他は年度によつて其位置が變るこゝが解る。それで幼児の仕事の仕ぶりはAとDが最も普通の型である云ふこゝが出来ると思ふ。此のこゝは組別にしても男女別にしても殆んど同じこゝであつて、唯八年度のバラの男がAに次いでBとEが多く、Dは第四位になつて居り、又同年度のスマイルの組の男でBがAに次ぎDは第三位になつて居り、更らに六年度のスマイルに於てDが最高で其次ぎにCが多くAはGを除いてBFと共に第三位になつてゐるのみである。尙これらの點を明かにする爲めに次に前掲の表を百分比に直した表を掲げて見る。

此等の表に於て觀察し得る點は男女及び年齢による相異、教育による相異である。先づ六年度の表を見るにチューリップミバラに於てはAは男よりも女に多くDは女よりも男に多い。二組を合計して見るならAは男に於て三六・一七で女に於て四七・一〇となつてゐるがDは男に於て三四・〇四、女に於て一九・五七となつてゐる。故にこれだけを見れば直ちにAは女にDは男に多い型と斷言したいやうに思はれるのであるが、八年度と五年度の表を見るならそれには全く反對の結果が表はれてゐるのを見出す。だから六年度だけの表から斷案を下す事は早計と云はなばならぬ。寧ろ仕事のしぶりに於ては男女の相異點を今の所見る事は出来ないものとしなければならぬ。

次に年齢に於ての相異であるがAは六年度に於ても八年度に於ても又五年度に於ても年齢の小さい組が年齢の大きい組よりも少ない。して見るにAは年齢と共に多くなる

ものミ云へるのであるが、併し然う断定する事はまだ出来ないやうに思はれる。若しAが年齢ミ共に増加するミすればAは發達した型ミ云へるのである。若しAが發達した型であるミすれば、Aは教育によりて増加するものミも見なければならぬ。此れについて前に掲げた六年度の表によりて見るにバラの組よりもチューリップの組の方がAの数は遙かに多いだからそれだけで云へばAは教育の結果多くなつたものミ思はれるのであるが他の年度の表ミ比較して見るなら必ずしも然うでないミ云ふこゝが明かにされるのである。だからAは教育の結果現はれる型であるミか、發達した型であるこゝは未だ云ふこゝは出来ない。發達した型、ミ云へば發達しない前の原始型式は何であるかをも指摘しなければならぬし、そして其原始型式が何であるかはまだ云ふこゝは出来ない。故に今の場合まだAを發達した型式ミは見るこゝは出来ない。故に此れらは皆幼兒の個性的性格或は心理的狀態によりて作り出された仕事ぶりの原始的型式であるミ見ておくの他はない。

成人の仕事ぶりを見ても矢張りAからGに至る七種の型のあるこゝを認める事が出来る、それ故幼兒期の遊戯的時代に於て既に成人の仕事ぶりの型式が原始的な型ミして現はれるこゝを以上の研究に於て明かに認めるこゝが出来るのである。

尙仕事ぶりミ智能ミの關係であるが、これについては先づ八年度の智能検査をしたもの、仕事ぶりを智能指數に分配整理して見れば其大體を知るこゝが出来るミ思ふ。

此れによりて見るにAは明かに智能の高くなるに従つて減じ智能の低くなるに従つて多くなつてゐる。して見るミAミ云ふ極めて普通の仕事ぶりは智能の低い者に多く現はれる型ミ見るこゝが出来る。Bは智能指數が百二十以上のものに一三・九五で可成り多い方であるが智能が百十、百二十の所ではそれよりか遙かに減じ、智能百以下では又非常に多くなつ

第十四表

智能數		A	B	C	D	E	F	G	H	?	計
130以上	男	3			2					1	6
	女	14	6	2	6	3				6	37
	計	17	6	2	8	3				7	43
	%	39.54	13.95	4.65	18.60	6.98				16.28	100
120	男	12	1		13	2				2	30
	女	15	5		7	3			1	5	36
	計	27	6		20	5			1	7	66
	%	40.91	9.09		30.30	7.58			1.52	10.61	100
110	男	4	1			2		1	1		9
	女	22	1		16	8				1	48
	計	26	2		16	10		1	1	1	57
	%	45.62	3.51		28.07	17.55		1.75	1.75	1.75	100
100	男	28	14		4	4				3	53
	女	10			4					3	17
	計	38	14		8	4				6	70
	%	54.29	20.00		11.43	5.71				8.57	100
90	男	9	5		6					3	23
	女	17	2		1	1				1	22
	計	26	7		7	1				4	45
	%	57.78	15.56		15.16	2.22				8.88	100
80以下	男	6	1								7
	女	4				1				1	6
	計	10	1			1				1	13
	%	76.93	9.69			7.69				7.69	100

て智能八十以下で又甚だ少くなつてゐる。故にBは普通の智能の中に於て下級なものに優秀なものに最も多く、普通の智能の上級なものに八十以下の智能のものに少ない。Cは殆んど数が少なく右の表では百三十以上のもの、中に二人(四・六五)しかない。Dは百十の智能のもの、中に最も多く其上には少なく其下にはそれよりもつゝ少なくなつてゐる、八十以下には百二十以上とほぼ同様にある。それでDはEと丁度反對になつて、Bは百以下のものに、Dは百十以上のものに多くなつてゐる。Fは一人もなくGについては別に云ふに及ばない。

要するに此の表だけではまだ確定的なことは云へないがA B D Eの四種の

仕事ぶりは智能との關係が相當深いものではないかと思はれるのである。

尙これについては小學校の成績と比較して見て幼兒期の仕事ぶりが小學校に於ける成績との關係をも研究する積りで一應學校の方も調べては見たが平均點九點十點のものが多く八點七點のものは極めて少ないため研究の興味が失はれたのである。これは後の研究に残して置くことにした。それに小學校の成績にしても一年二年の成績には家庭で手傳はれた成績も相當あるのではないかと思つたからでもある。子供自身の眞の成績が何年位に表はれるかは私にはまだ解らないが、若し四年五年の頃から表はれるものこそば今こゝで研究の對象となつてゐるものは最高が四年で、四年はまだ中途であるから眞の成績を見るべきものはまだ全然得られない。何づれにしても小學校の成績と幼兒期の仕事ぶりの關係は後の研究に残して置くことにする。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス。其要項左ノ如シ。

東京女子高等師範學校

一、募集人員

凡ソ二十四名

二、學費

學費ハ總ベテ自費トシ授業料年額金五拾五圓ヲ徵收ス。

三、選拔試験及身體検査

選拔試験ハ二次ニ分チ之ヲ施行ス、第一次ハ全志願者ニ對シ之ヲ行ヒ、第二次ハ第一次ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ。

第一次試験

國語(解釋・作文) 理科(植物) 圖畫(自在畫)

第二次試験

音樂(唱歌) 身體検査並ニ口頭試問

出願期間

二月八日より三月九日マテ

四、出願及検査場所

三月十六日同十七日ノ二日間

五、試験及検査場所

東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校

六、出願受付試験及検査場所

右ノ外、生徒募集ニ關スル詳細ハ之ヲ記載セル印刷物ニツキ承知スベシ、此印刷物ハ直接本校ニ就キ受領スルカ、

又ハ貳錢切手ヲ貼附セル封筒ヲ添へ、本校ニ對シ郵便ヲ以テ之ヲ請求スベシ。